

第四回

坂東市道の駅整備運営方針

諮問委員会

平成29年3月24日

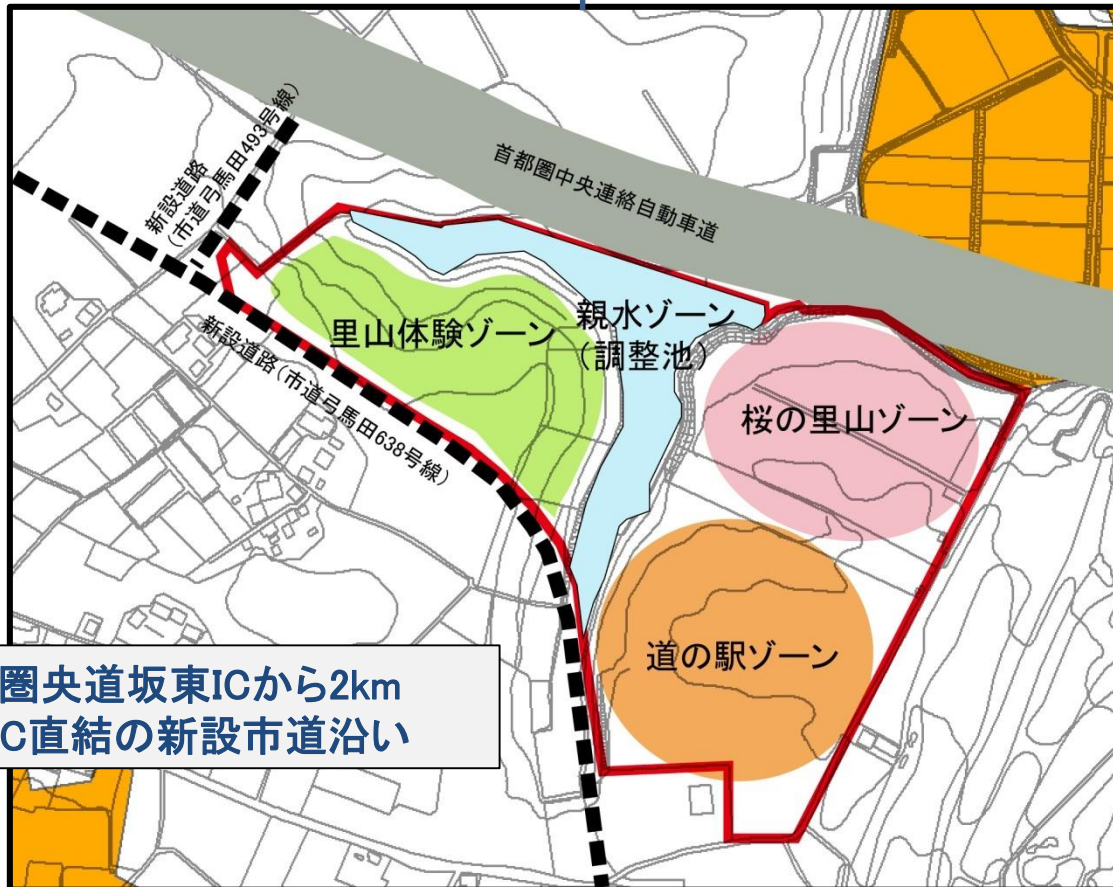
Contents

- 1. 「道の駅」の整備コンセプト・・・・・・・・・・ p. 2～4
- 2. 「道の駅」に備える機能と施設等・・・・・・・・ p. 5～10
- 3. 今後の検討課題とスケジュール・・・・・・・・・・ p. 11

1.「道の駅」の整備コンセプト

計画予定地

中心市街地から約4km北側



圏央道坂東ICから2km
IC直結の新設市道沿い

市の現状と課題

強 み

広大な農地と豊かな農産物・生産を担う農業者
周辺都市に比べて高い農業出荷額

國王神社・逆井城跡など豊富な歴史的資源

桜・菅生沼など豊かな自然景観

イベントや市内商店での取り組みなど盛んな市民交流

弱 み

人口減少・少子高齢化、特に20代のファミリー層を担う若者の市外流出がもたらす更なる人口減や少子高齢化による活力低下

買い物や余暇活動が市外に流れ、他都市からの流入も少ない状況

農産物を活かす体験や六次化施設の不足

移動のための交通手段の不足

道路利用者や観光客が気軽に立ち寄れる休憩施設の不足

坂東市の認知度の低さ・訴求力の弱さ

災害面での不安の高まり

坂東市の可能性 潜在ポテンシャル

広域道路網の整備により、高速道路・一般道路利用者の「ついでの立ち寄り」の誘発による新たなビジネスチャンス

質の高い農産物を活かした産地直売・加工品販売等により坂東市の名前を売るチャンス

中心市街地における観光交流機能の強化
⇒新たな交流施設の整備や定期的なイベントへのリピーターの呼び込み

強みを発揮する「機会」や「場」の創出

⇒農産物・史跡・自然環境・豊富なイベントなど、「商品化」が期待できる「原石」はあるものの、「坂東市の○○」として売り出すためには、もっと「商品力」を磨き上げ、ブランド化を図り「○○の坂東市」とアピールしていく必要があります。そのための「機会」や「場」が求められます。

「伝わる」情報提供の仕組みの確立

⇒地域資源の魅力を発信し、ついでの立ち寄りや市内観光資源への誘発につなげることが求められます。

安心くつろぎの場の創出

⇒交通量増大への対応、来訪者のおもてなし、市内休憩機能の強化、災害への対応など、道路利用者の休憩ニーズや災害時の対応拠点としての機能が求められます。

認知度を
高める

1.「道の駅」の整備コンセプト

道の駅整備の目指すべき方向

STEP1:市民の気づき・もっと坂東自慢

- 道の駅が坂東市に埋もれている「良いモノ・コト」を発掘し、取り上げることで、市民を「惹きつけるモノ・コト」＝「坂東市の魅力」に市民が「気づく」場を提供します。
- 市民が坂東市の魅力に気づくことで、道の駅を通じて、市民が坂東市の魅力を語り・発信する機会を提供します。
- 坂東市の人口は減少傾向にあるが、坂東市で活躍する「活躍人口」を増やしていくための場や機会を提供します。

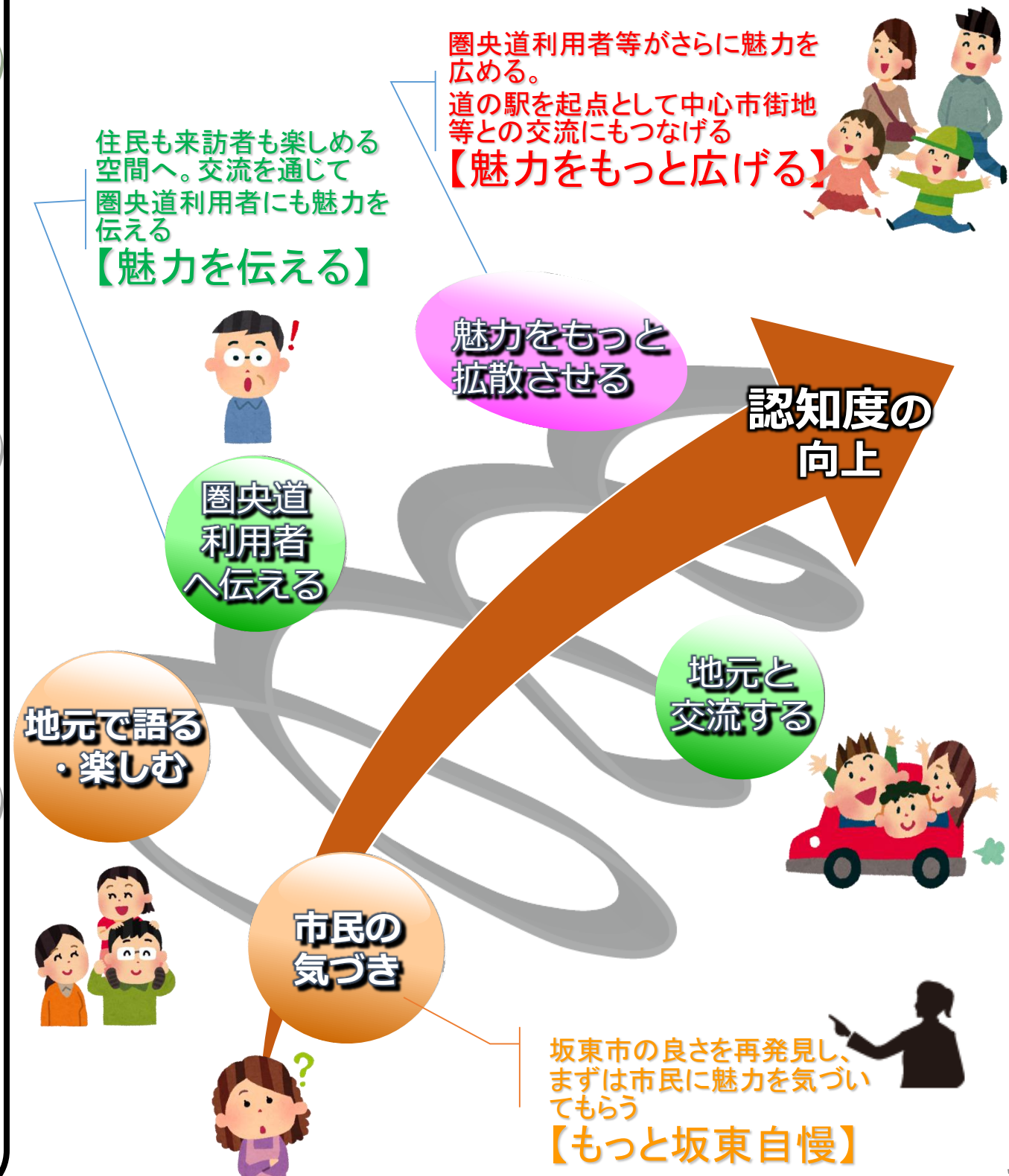
STEP2:圏央道利用者へ坂東市の魅力を伝える・交流する

- 道の駅を賑わいの場として盛り上げ続けていくためには、選ばれることが大切です。
- 道の駅と圏央道が連結することにより、圏央道を利用して坂東市を通る人々に、市民が自慢する坂東市の魅力を発信していきます。
- 市民が自慢する「食すコト」「こしらえるコト」「触れるコト」などを通じて、市民との交流の場を提供します。

STEP3:高速道路ネットワークを通じて坂東市の魅力を拡散する

- 坂東市の道の駅で出会った魅力ある「コト」とその物語を、圏央道利用者が高速道路ネットワークを通行して「帰る場所」「行く場所」で語り、あるいはインターネット上で語ることを通じ、坂東市の魅力をさらに広めていきます。
- 道の駅は、坂東市の魅力の拡散＝坂東市の認知度の向上と、魅力ある「コト」との出会いを、市民が全力で「おもてなし」する場と機会を提供します。
- 市民の「おもてなし」を通じて、道の駅での交流人口を増加させ、さらに市内各地や中心市街地へ人々を呼び込み、地域の元気力を高める機会を提供します。

道の駅から始まる気づき・発信・交流のグッド・スパイラル



1.「道の駅」の整備コンセプト

道の駅の整備コンセプト

坂東市の「活躍人口」を増やす「グッド・スパイラル」の創出拠点

坂東市の道の駅は、市民が「坂東市の魅力」に気づき、市民がそれを磨き上げ、発信することで、坂東市の「活躍人口」を増やし、圏央道の開通により全国的高速道路ネットワークに直結した坂東市の魅力拡散と交流人口の拡大という「坂東市グッド・スパイラル」の創出拠点となるべく施設整備を行います。

＝グッド・スパイラルの創出に向けた整備のあり方＝

■圏央道・坂東ICの開通効果の取り込みに向けた施設要件

道の駅の整備に当たっては、高速道路との連結許可に必要な不可欠な技術的要件を満足する施設とすることが必須

■市民の「気づきの場」の創出に向けた施設要件

市民が坂東市の魅力に気づく場とすべく、坂東市の「モノ」と「コト」がたつむぐ物語を、市民が再発見・共感できる形で提示

- ⇒市民に新鮮・安全な地元産品を提供し、地元産品を活用した商品の企画・開発拠点となる農産物直売所・六次化施設、
- ⇒整備コストを考慮しつつ、身近な史跡への関心・愛護の機運を高め、市内の史跡等の観光資源化を促進させるための歴史を感じる外観
- ⇒地域の市民に対し、「いざ」というときの「安心」を提供する防災備蓄倉庫・ヘリポート・非常用水源等の防災施設

■圏央道利用者への「魅力発信の場」の創出に向けた施設要件

高速道路利用者が求める休憩機能や飲食サービスについて、市民が自慢できる坂東市の「モノ」と「コト」を積極的に提供

- ⇒長時間乗車による疲れを癒すための水・桜・緑の空間や子ども・ペットが自由に遊んでストレスを解消するための空間等を提供
- ⇒地元産品を軸に地元企業等とのタイアップ等による「坂東市」らしいメニューを提供
- ⇒整備コストを考慮しつつ、坂東市のプロフィールを印象的に紹介するための歴史を感じる外観・施設
- ⇒大規模災害時の一時避難施設・復旧支援の中継拠点としての機能

■圏央道で繋がる広域圏との交流促進に向けた施設要件

道の駅と市内観光拠点等と結びつけ、お客さまを市内への呼び込むことで、市民との交流を活性化

- ⇒市内観光拠点・中心市街地・交流拠点等と道の駅を結ぶバスの運行や、道の駅を発着するツアー等
- ⇒SNS・WEB等を利用した市民と繋がる「コト」の提供

道の駅に備える機能

A.休憩機能

坂東市を訪れた際に、いつでも休憩し清潔なトイレが利用できる快適な休憩施設を設けます。

B.情報発信機能

地域振興や定住化につながるような地域の魅力（人・歴史・特産品・文化）を発信します。

C.地域の振興・交流体験機能

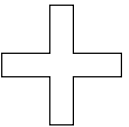
地域の資源を活し、地域住民と来訪者が交流しながら、新たな魅力を発信します。

D.防災機能

災害時に、道路利用者や地域住民の避難場所としての機能を備えます。

E.自然・文化の継承機能

坂東市の魅力を継承するため、人と自然・歴史が触れ合う仕掛けを行います。



圏央道の整備により必要とされる機能 （観光案内機能）

成田方面等からの外国客のインバウンド観光拠点となるようサイン表示、情報提供の対応 等

2. 道の駅に備える機能と施設について

A. 休憩機能

a. 駐車場

- 交通量や施設利用に応じた規模の駐車場を確保し、誰もが停めやすい、ゆとりある駐車スペースを確保します。また、障がい者等用駐車スペースについては、施設に近い位置に整備し、で主要な施設にアクセスできるよう計画します。
- さらに、安全確保のため、小型車と大型車が交錯しないように、可能な限り駐車スペースを分離するほか、利用者の安全を確保するため、歩行者の通行スペースを整備します。

【利用者への配慮の例】

- 障がい者等用駐車スペースは、妊産婦なども利用できることを示す標識を設置。
- バイクツーリングを楽しむ利用者に配慮した二輪車用駐車スペースを整備。
- 施設へのアクセス性を高めるため、バス・ステーションを確保。



駐車場内の歩行者通路
イメージ



バス・ステーションイメージ



マタニティ標識イメージ

《ユニバーサルデザインの導入例》

- 駐車場は、全面バリアフリー（駐車場部と歩道部の段差解消）とします。
- 障がい者等用駐車スペースには屋根を設置し、雨が降っても濡れずに施設内に入れるようにします。



段差解消イメージ



障がい者等用駐車スペース
イメージ

b. トイレ

- 道路利用者をはじめ、道の駅を訪れた誰もが快適に利用できる24時間利用可能な清潔なトイレを整備します。
- また、車いす利用者や乳幼児を持つ子育て家族など、誰もが安心して利用できるよう配慮します。
- さらに、災害時にもトイレを利用できるよう整備します。

【利用者への配慮の例】

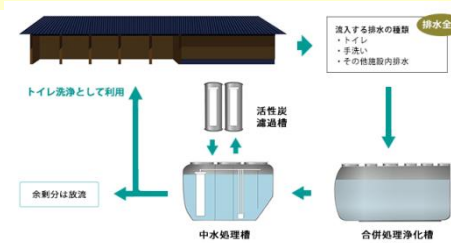
- LED照明や天窓を採用するなどによる明るい空間づくり。
- 暖房洗浄便座や温水対応の自動水栓を設置。
- トイレ内の床は、段差のない、すべりにくいものを選択。
- 待ち合わせスペースを設置。
- 清掃中も利用できるトイレレイアウト。
- 中水利用等による節水、省電力といった環境配慮型設備を導入。



明るい雰囲気
のトイレ
イメージ



トイレ前の待ち合わせ
スペース
にあるベンチ
イメージ



中水利用のイメージ

《ユニバーサルデザインの導入例》

- オストメイト対応トイレやオムツ替えスペース、ベビーチェア、子ども用トイレなどを備えた多目的トイレ（誰でもトイレ）を整備します。



多目的トイレイメージ

2. 道の駅に備える機能と施設について

A. 休憩機能

c. 休憩所

- 多くの来訪者がゆつくりと快適に休憩できるスペースを確保します。また、乳幼児を持つ子育て家族が安心して道の駅を利用できるよう、授乳・オムツ替えなどのできる「赤ちゃんの駅」を設置します。

【利用者への配慮の例】

- 明るく落ち着いた空間づくり。
- 多くの場所に休憩のためのベンチ、テーブルを設置。



キッズコーナーを併設する
休憩スペースイメージ



情報発信コーナーを併設する
休憩スペースイメージ

B. 情報発信機能

d. 情報コーナー・ 地域交流スペース

- 地域・観光情報をはじめ、多様な情報提供（展示も含む）を行うことができるスペースを整備します。情報発信コーナーでは、道路情報に加えて、坂東市や周辺都市の観光・イベント情報や行政情報等も提供します。
- これらの情報は、無料Wi-Fiサービスにより各個人が持っているスマートフォンやタブレットを介して提供することとしますが、コンシェルジュを配置することで、旬で細やかな、地元ならではの情報を提供することも考えられます。
- また、外国客のインバウンド観光に対応できるように誰もが分かりやすいサイン表示、情報提供を行います。
- さらに、圏央道等の整備によりこれまで以上の地域連携が進むと考えられることから、交流機能を深めるためのスペースを配置します。

【利用者への配慮の例】

- 「道の駅SPOT」等の無料Wi-Fiサービスを実施し、各個人のスマートフォンやタブレットを通じての検索サービスを充実。
- 地元の旬な情報を発信するための手作り掲示板や利用者ニーズを把握するための意見箱などを設置。
- 多目的室やイベント広場を活用して地域連携を担う情報や交流イベントを実施。
- 災害発生時には、情報提供拠点として、通行可能ルート情報や災害情報なども提供。



無料のWi-Fiスポット
のサインイメージ



多目的広場での
交流イベントイメージ



地域情報（文化・歴史）
資料室（展）イメージ



情報掲示板イメージ

2. 道の駅に備える機能と施設について

C.地域の振興・交流体験機能

e. 飲食施設(フードコート)

- “坂東ブランド”商品のPRを、「食」を通じて行うため、四季折々の地場産品とともに、農作物など市の特産品を積極的に活用した料理を提供する地産地消のフードコートを整備します。
- なお、ここでは、地場産品を使用する郷土料理や市民から募ったアイディア料理など、ここでしか食べられない食材を使ったメニューも提供します。
- また、食品残さの堆肥化に取り組み、リサイクルに必要な施設(コンポスト等)も検討します。



地産地消フードコートイメージ



開発商品に対する顧客アンケートの実施

f. 坂東市ブランド創造機能

■ 地場産品、特産品のPR・販売施設

地産地消活動の中心的役割を担う道の駅において、地場産品の良さや安全性を発信し、生産の拡大を支援するため、農産物直売所や物産販売コーナー等を整備します。

【利用者への配慮の例】

- ・安心・安全な農産物などを確保し、生産者の顔が見える売り場づくり。
- ・子ども連れでも、車椅子の方でも、誰でもゆっくりと買い物が楽しめる、ゆとりあるスペースを確保。
- ・旬の野菜や珍しい野菜にはレシピを添える等、地場産品に関する情報も提供。

■ 地場産品を活用した製造・販売施設(6次化施設)

地場産品に新たな魅力・付加価値をもたせるため、製品(加工品)を製造・販売するための施設を整備します。

【利用者への配慮の例】

- ・加工品の安全性のアピールと、見て楽しむことができるよう、商品の材料や加工過程が見える工夫



農産物直売所イメージ



生産者の顔が見える農産物

2. 道の駅に備える機能と施設について

C.地域の振興・交流体験機能

g. イベント広場

- ・ イベント広場は、天候に左右されず、幅広く利用できるようにするため、半屋外空間の創出を図ります。イベント広場の周囲には、気軽に休憩や食事、イベントの観覧などができるよう休憩できる場所を配置します。
- ・ なお、災害発生時でも有効活用できるよう、駐車場に近い場所に配置します。

【施設活用メニューの例】

- ・ 青空市やフリーマーケットなどの販売系イベントを開催。
- ・ 市民団体によるパフォーマンス系イベントを開催。
(音楽や舞踊などの市民活動発表の場)
- ・ 食の祭典や特産品フェアなどの飲食系イベントを開催。
- ・ セタやクリスマスなどの四季折々の飾り付け。

【災害発生時の活用イメージ】

- ・ 支援物資の集積・供給場所などとして活用



季節による多様な
イベントで活用イメージ



青空市の会場
利用イメージ



災害物資集積所
利用イメージ

h. 多目的室

- ・ 多様な市民交流の促進を図り、坂東市の良さを地域内外に伝えることができるよう、郷土料理づくりや伝統技術の体験・講習会や屋内イベントなどの開催に利用できる多目的室を整備します。
- ・ また、様々な利用ができるように、可動式パーテーション(間仕切り)で一つの部屋を分割するなどの工夫を行います。

【施設活用メニューの例】

- ・ 地元の工芸を活かした各種教室(ガラスづくり、草木染めなど)を開催。
- ・ 会議、各種研修会の開催。
- ・ 食育講座や地元産食材を利用した親子料理教室(郷土料理を含む)などを開催。

【災害発生時の活用の例】

- ・ 仮眠室や炊き出し場所などとしての活用。



料理教室のイメージ



ハロウィンかぼちゃ作り
体験イメージ



緊急避難場所利用
イメージ

D.防災機能

i. 水、電気、トイレ

- ・ 防災拠点として利用できるようにするため、災害時でも水、電気、トイレなどを使うことができるよう、耐震性の高い受水槽や小型自家発電装置、災害用井戸、太陽光発電施設(環境保全機能と併用)を設置します。

【平時における施設活用の例】

- ・ 防災訓練時の利用。

【災害発生時の活用の例】

- ・ トイレや非常用電源、生活用水等として活用。



耐震性の高い
受水槽イメージ



災害用井戸イメージ

j. 支援活動拠点

- ・ 道路利用者や地域住民が避難場所として利用できるよう、必要な備品保管施設(防災倉庫等)の整備について検討します。
- ・ また、ドクターヘリポートや災害時の救援ヘリが利用するヘリポートなどを設置します。

2. 道の駅に備える機能と施設について

E.自然・文化の継承機能

k. 将門歴史紹介・体験コーナー・ツアーデスクの設置

- 坂東市は平将門が独自に除目を行い政庁を置いた場所であり、現在、毎年将門まつりが盛大に行われ、國王神社や延命寺等では、将門の歴史が伝えられるとともにパワースポットとしても紹介されています。
- その特色を活かし、将門の歴史を紹介する場や体験コーナー、歴史探索のツアーイベントの開催を企画・提案するツアーデスク等を設置し、市内観光への窓口として来訪者が坂東市と歴史を楽しめる機会を提案します。



コスプレ体験・古代アクセサリ作り体験イメージ



乗馬体験イメージ



伝統衣装でのまち散策イベントの例

1. 坂東市の自然体験①

■キャンプ場・バーベキュー広場

- 自然環境の中でゆったり楽しめる機会の創出を図るため、キャンプ場やバーベキュー広場を整備します。
- なお、キャンプ場には炊事場、貸し切りテント等を整備します。

【施設活用メニューの例】

- ・日帰りキャンプ。
- ・バーベキュー広場（農産物直売所で販売する採れたて野菜を食材に）。



キャンプ場イメージ



キャンプ場利用イメージ



炊事場イメージ

■里山を活かした公園・遊び場

- 坂東市には、市街地周辺は、農地や集落を取り囲む雑木林や里山など、風土に寄り添いながら作られ守られてきた自然景観があります。これらの自然を活かした遊び場や散策スペース等を整備します。

【活用メニュー・利用者への配慮の例】

- ・自然地形を活かしたアスレチック・探索路・ドッグラン
- ・遊びを教えるプレーリーダーを配置し、自由に遊べる工夫を行う。

2. 道の駅に備える機能と施設について

E. 自然・文化の継承機能

l. 坂東市の自然体験②

■調整池をめぐる親水遊歩道・里山遊歩道

- ・ 散歩しながら、坂東市の自然や風景を楽しめるような遊歩道を整備します。坂東市の自然環境や歴史等が体験できるルートを設定し、遊歩道やサイン整備を行うとともに、ガイドツアーを実施します。

【利用者への配慮の例】

- ・ 道中休憩できる屋根付きベンチ等を設置。
- ・ 道中利用できるトイレを整備。
- ・ 筑波山などの景観への考慮。
- ・ なるべく車両と遭わないようにする。



遊歩道のイメージ



遊歩道沿いの
公衆トイレイメージ



遊歩道の運動施設
イメージ

m. 自然環境保全の機能

■ 自然エネルギーを利用した発電施設

- ・ 自然エネルギーの活用による環境への負荷の軽減を図り、環境にやさしい道の駅となるよう、太陽光発電施設を整備します。

【平時における活用の例】

- ・ 外灯、屋内照明の電源としての利用。

【災害発生時の活用の例】

- ・ 非常用電源としての利用。

■ レンタルサイクル

- ・ 道の駅周辺を気軽に散策できるようレンタルサイクルを設置し、道の駅とその他の観光地を結ぶ二次交通を整備します。

【利用者への配慮の例】

- ・ 子ども用自転車・二人乗り用自転車など、多種類の自転車を配置。
- ・ 安全性に配慮して、ヘルメットや足当て等の備品を設置。
- ・ ポタリング・マップや散策マップの作成。

■ 電気自動車のための充電施設

- ・ 電気自動車の普及に伴い、道路利用者へのサービスの充実を図るため、電気自動車の充電施設(電気自動車急速充電機)を整備します。

【平時における活用の例】

- ・ 電気自動車への充電。

【災害発生時の活用の例】

- ・ 非常用電源としての利用。



太陽光発電施設イメージ



太陽光発電と併用の急速充電
施設イメージ

3. 今後の検討課題とスケジュール

今後の検討課題	● 公的負担の抑制が可能となる運営手法 - 地域活性化の実現に向け、公的負担の抑制が可能となる運営手法について検討 ● 生産者の組織化と育成 - 多種多様な農産物の直売を見据え、関係機関・農業関係団体等と連携して具体的な手法を検討 ● ブランド化と企画・開発主体 - 市の魅力を客観的に評価し、ブランド化の知恵と工夫を持った第三者の協力を得ることも検討 ● 運営主体の選定方針 - 公的負担の抑制に向け民間事業者も含め、最適かつ最も経済的な運営主体を公平・公正に選定するため、透明性を確保した選定方法を検討
---------	--

	H29.4	H29.7	H29.10	H29.12	H29.3
今後のスケジュール	第5回（中間とりまとめ答申）	第6回（運営手法事例研究等）	第7回（生産者育成方針 ブランド化方針検討）	第8回（運営主体選定方針 検討）	第9回（整備運営方針答申）

※開催時期・検討テーマは、委員会の議論の状況等により変更することがあります。